



東海大学大学院 医学研究科

教員紹介

領域(医学部組織)
血液・腫瘍内科学

専門分野キーワード

教員氏名 横山 健次 (よこやま けんじ)
取得学位 博士(医学)
現在の身分(役職名) 教授
専門分野 造血器腫瘍、癌と血栓症、抗血小板療法
現在の研究課題 造血器腫瘍における血栓症
所属学会 日本内科学会、日本血液学会、日本血栓止血学会、
日本臨床腫瘍学会、日本骨髄腫学会、米国血液学会、国際血栓止血学会

研究内容

悪性腫瘍患者では血栓症、中でも静脈血栓塞栓症(VTE)発症率が高い。悪性腫瘍患者における血栓症発症には腫瘍細胞による血液凝固能亢進および血小板活性化、化学療法、中心静脈カテーテル留置、ADL低下などが関与していると考えられている。また血小板はがんの進行、転移に関与することが報告されており、さらに抗血小板薬のアスピリンが、大腸がんなどおもに消化管のがんの発症率、およびがんによる死亡率を低下させる可能性が報告されている。このように血栓止血系と悪性腫瘍には深い関連があり、これらの研究はおもに固形がん患者を対象として行われている。

一方造血器腫瘍患者でも固形がん患者と同様に VTE 発症率が高いことが報告されており、中でも悪性リンパ腫患者の VTE 発症率は 5-59.5%と高い。また多発性骨髄腫患者の VTE 発症率は約 5%と報告されているが、サリドマイド、レナリドマイドなど免疫調節剤を投与した多発性骨髄腫患者では最高 58%まで高くなる。これらの薬剤を使用する際には予防的に抗血小板薬、抗凝固薬を投与することが推奨されている。これらのことを踏まえて、我々は造血器腫瘍が血栓止血系に与える影響を解明することを目指して研究を進める。

主要論文

1. Yokoyama K, et al. Effects of daily aspirin on cancer incidence and mortality in the elderly Japanese. Res Pract Thromb Haemost. 2018; 2: 274-81.
2. Yokoyama K, Thrombosis in Lymphoma Patients and in Myeloma Patients. Keio J Med. 2015; 64: 37-43.
3. Ikeda Y, et al. Low-dose aspirin for primary prevention of cardiovascular events in Japanese patients 60 years or older with atherosclerotic risk factors: a randomized clinical trial. JAMA. 2014; 312: 2510-20.
4. Yokoyama K, et al. Incidence and risk factors for developing venous thromboembolism in Japanese with diffuse large b-cell lymphoma. Thromb Res. 2012; 130: 7-11.
5. Yokoyama K, et al. A survey of the clinical course and management of Japanese patients deficient in natural anticoagulants. Clin Appl Thromb Hemost. 2012; 18: 506-13.